

句集
夏雲



池田友之

第一句集『惜春』を出したあと
「惜春以降」として句を作ってきたが、
やはり第二句集にも題名がいたると思ひ、
雲の句が多いので『夏雲』とした。

—— 著者

鹿島槍北峰けがす雪崩あと

震源は遠しと思ふ雲の峰

姨捨は麓をのぼる月の秋

梅雨空は阿吽の形の白眼かな

時置いて樹雨さやかに降りにけり

佃島夜潮に満つる秋の音

銀嶺を高く信濃の枯野かな

立春の富士烈風をあらはにす

蹴散らされ霜の節理の潔き

水遣れば水玉で知る蜘蛛の糸

初夏の雲動き初む夜明けかな

上枝には桐の花房立ちにけり

麗かに口紅を引く電車内

沖に遊ぶ若者よそに若芽刈る

古希越えて迎ふる年の下着買ふ

琴の音を追ひつつ覚むる大旦

除夜詣で明くれば新たに今一社

一日は母の命日初燈

陽は四方の春を起こして昇りけり

羽子の音の学校裏に響くかな

大奥のあと泰山木の花散りぬ

野川ゆく蛇の衣の浮き沈み

座布団へ横たはりたき藺の香り

片陰を立ちて鞆に本仕舞ふ

葯おちて白けがれたり百合の花

風の波玉巻く葛を吹きつぶし

身構へる我が身寂しき梅雨の明け

夏草を吹き渡る風兄の空

宿る木の裾染め上ぐる蔦もみぢ

冬隣改組日展の誘ひ来る

振袖の子に降る銀杏黄葉かな

冬に入る鳥ほじくる燃えるごみ

蟬
鳴
い
て
風
の
温
度
差
伝
は
り
ぬ

一
川
は
信
濃
へ
木
曾
の
夏
の
川

種
種
の
ア
イ
ス
ク
リ
ー
ム
開
田
村

御
岳
は
頂
上
見
せ
ぬ
夏
野
か
な

著者略歴

池田友之 (いけだ・ともゆき)

昭和13年 (1938) 9月19日 生まれ

平成11年 (1999) 「ぐる芽句会」結成 主宰

日本俳人クラブ評議員

句集に『惜春』

句集 夏雲

2015年10月15日 第1刷発行

著者 池田友之

発行者 大崎紀夫

発行所 株式会社 ウエップ

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-24-1-909

電話 03-5368-1870 郵便振替 00140-7-544128

印刷 モリモト印刷株式会社

※定価はカバーに表示してあります ISBN978-4-86608-007-9